

治す医療と支える医療

社会福祉法人いずみ理事
社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院院長
佐々木征行

皆様、新年あけましておめでとうございます。コロナ、戦争、大地震と心穏やかに過ごすことが難しいこの頃ですが、これから先は良い年になるようお祈りいたします。

年初にあたり自分の半生を振り返ってみました。学生時代はブラックジャックのように腕一本で患者さんの病気を治す医師に憧れました。しかし不器用な自分では無理だと悟り内科系を考えました。内科は臓器別に専門分化しており、卒業までに専門を決めきれなかった私はモラトリアム期間として小児科を選びました。当初研修を受けた一般市中病院では、気道感染症、気管支喘息、消化不良症など重くても数日間入院すれば元気になるお子さんが主でした。大学病院では、専門的な技量がないと対応できない難しい患者さんもいました。小児科の中でも循環器、悪性腫瘍、新生児など専門分化が始まっていました。治療法のない進行性神経・筋疾患や脳性麻痺など重度脳障害、あるいは先天性要因による発達遅滞児などは十分な医療を受けられないような状況でした。

中枢神経障害を基礎に持つが正確な診断は分からない子供たち、あるいは診断はできても治療法がない子供たちが多数いました。周囲に小児神経の専門家がほとんどいなかったため、医師になって6年目、誰もいないなら自分が専門家になってくると決意して片田舎から東京へ飛び出してきました。国立精神・神経センター(NCNP)で、神経学的診察法や病歴/診察所見から診断/治療へ至る考え方などを恩師有馬正高先生から直接教わりました。特に NCNP の重症心身障害児者(以下重症児者)病棟では、重症児者とそのご家族への支援の仕方を教わり実践してきました。

大学では医師の仕事は病気を治すことと教わっていましたが、治らない病気でも医師の仕事はあると NCNP で叩き込まれました。診断がついてもつかなくても、根本的治療法がなくても、障害がある人たちの毎日の生活は続きます。生きるためには生活支援が必要です。それに加えて、てんかん発作、呼吸障害、嚥下障害、誤嚥性肺炎、胃食道逆流、便秘、筋緊張亢進など様々な症状が現れます。それらを治療し制御する医療も必要です。病気を根本から治すことは理想ですが、たとえ大元が治らなくても健康と生活を支えることも重要と考え、30年間にわたり支える医療を実践してきました。最期までこの子らしい人生を歩むことができましたとご家族から感謝されることもありました。この間に画像診断や遺伝子診断など診断学の進歩や新たな治療法の実現に立ち会うこともでき、大きなやりがいを感じてきました。NCNP 退職後、東京小児療育病院に勤めることになりました。利用者とそのご家族を支える立場として、これからも医療を実践していきたいと思います。

(→2ページ目へ続きます)

近年知的障害者の入所施設に対して脱施設および地域移行が強く勧められてきました。在宅重症児者の増加と重症化も進んでいます。重症児者入所施設の新規受け入れに余裕のない状況の中、社会福祉法人いずみによる身体障害者グループホーム ファウンテンの開設はとても素晴らしいことです。順調に運営できるよう見守りつつ、必要時にはお手伝いできればと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。



第9回いずみコンサート

令和6年1月5日金曜日。東村山市富士見公民館コンサートホールにて、第9回いずみコンサートを行いました。3人組ユニットの「プリコロハウス」さんをお招きしたコンサートは、第8回と同様にコロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症予防を行いながら、いずみの利用児・者さん以外に、ご家族や関係者の皆様もお誘いして開催しました。

プリコロハウスさんは演奏中の動きも多彩で、観て、聞いて楽しめるコンサートでした。参加された皆さんも、演奏に合わせて大きく体を動かされたり、リズムに合わせて手拍子をしたり…。まるで観覧者も演奏に加わって、一つのコンサートを盛り上げているように感じました。

コロナ禍は続きますが、回を重ねる度にコロナ禍前の様な、どなたでも参加できるコンサートに戻ってこられていると思いました。

次回は記念すべき第10回いずみコンサートになります。どのような形になるかはまだわかりませんが、素晴らしいコンサートが続けられるよう法人一同想いは一つにして取り組んでいきます。

(増田)



～ 活 動 報 告 ～

あゆみの家成人部 （生活介護）

今年度も成人部では四季折々の行事を企画。春と秋は果物狩りを行ない、さくらんぼ狩りとリンゴ狩りで季節を感じました。夏には2階のひまわりの子供たちと一緒に夏祭りを企画して、成人部ではお化け屋敷を作成、利用者さんがお化けに扮し楽しみました。

その他にも毎月趣向を凝らした壁面工作の作成で芸術を楽しみ、運動レクでは利用者さんの得意なことや好きな事をみんなで話し合い、タオルを掴む事が好きな利用者さんや、放り投げることが好きな利用者さんが主体となって参加できるハンカチ落としをプログラムに組み込むなど、日々の活動でも利用者さんの目線で楽しめることを考えながら行っています。利用者さんがこれからも、成人部に行く事が楽しみになるような活動を一緒に企画していきます。

（増田）



ひまわり （児童発達支援）

広い世界へ少しずつ飛び出せる様に

令和5年春からの活動は、感染防止に努めながら、外出を楽しめる内容を多く計画しました。

遠足は、春は武蔵村山のキッズリゾート、秋はボーネルンドと、どちらも室内遊具施設へ行き、大型遊具等で遊びました。他にもインクルーシブ遊具展示会へ行行って遊んだり、福祉機器展にも皆で行きました。市内の乳幼児施設「ころころの森」等の公共施設利用、色々な公園利用、そして府中の森へ「劇団四季の観劇招待参加」等、ここ数年あまりできなかった遠出の外出も含め、毎月外出行事を楽しみました。

令和6年は、法人内事業所を含め、外部交流にも力を入れていきたいと考えています。合同祭り参加や、事業所訪問、交流等、多くの外部刺激を受けられる様、子ども達が実りある活動内容を企画していきたいと考えています。

（西島）



ひまわり（放課後等デイサービス）

令和5年の活動は、積極的に、外出や親子参加での活動を楽しめるような企画を考えてきました。

春はバケツ稲づくりを始め、土に触れたり、水をあげて育てるという事にチャレンジ。

夏は駐車場にプールやブランコを設置し水遊びをし、スイカ割りなどもしました。また、多摩六都科学館、東大和郷土博物館でプラネタリウムの体験、昼食買い出し体験では「すき家」、アイスを食べに「有楽製菓」「サーティーワン」などにも行き、今まで自粛していた外出活動を少しずつ行い、様々な体験をすることが出来ました。

秋は稲を収穫したり、親子参加でジブリ美術館へ、遠足も行いました。

半年を通じて行った、バケツ稲作りは子どもたちにとっても好評だったので、令和6年も植物を育てていきたいと思います。繋がりや広がりのある活動を通じて、好きな事や興味がある事を引き出すお手伝いが出来たら、素敵だと考えています。

（大槻）



グループホーム ファウンテン（共同生活援助）

ファウンテンがスタートしてから3ヶ月が経ちました。ご利用者様も生活環境の変化や生活リズムの変化にも少し慣れてきたようです。また、同じフロアのご利用者様同士で交流も生まれ、ご利用者様同士が会話をしている様子も見られるようになりました。

クリスマス会などの季節行事も保護者様ご協力のもと実施することが出来、ご利用者様も大変喜ばれていました。

今後も近隣施設と協力した防災避難訓練や、お掃除等ではボランティアさんの受け入れなどを行いながら、ご利用者様が地域の中で生活していくお手伝いをスタッフ一同、一緒に行っていきたいと思っています。

（梶沼）

ライフサポートつばさ（生活介護）

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響を受け行事や外部との関りなど自粛しての活動が中心でしたが、昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたこともあり、いろいろな行事を実施しました。まず、9月につばさ祭りを久しぶりに近隣の方にもお声掛けし、ご家族のご協力を得ながら実施しました。食べ物の販売などはありませんでしたが、ゲームコーナー、飲み物販売、ボランティアによるフランドダンスなどを行い、久しぶりの賑やかな祭りとなりました。

グループ外出行事も再開。3カ所から好きな場所を選んでいただき実施しております。現在、ららぽーと立川組の2グループの方が11月に行きました。年明けからは、サイボクハム組、川越への外出組が出かける予定になっております。

12月の忘年会・クリスマス会では、午前中のカラオケ大会への参加を、ご家族にも声を掛けさせていただきました。お声掛けが遅くなり数名の家族の方の参加となりましたが、来年度は早く声をかけさせていただきながら、もっとご家族の方々にも参加していただけるような行事や活動を増やしていきたいと考えております。

日常の活動では、リハビリ、運動支援、レクリエーション、創作活動を中心とした活動に加え、東村山西高校ブラスバンド部に来て頂いてのコンサートや、富士見小学校3年生の授業への参加、子供たちとのポッチャ対決などの交流も行いました。

今年も、昨年実施した活動、行事などを継続し、昨年以上のことが、利用者、職員が一緒になり楽しんでいけたらいいなと思っております。今年もよろしくお願いいたします。

（千葉）



あゆみの家幼児部（児童発達支援）

あゆみの家幼児部の令和5年は、激動の年でした。

利用児のほとんどが幼稚園、保育園との並行通園（夏休み、冬休み等の長期休みの利用希望）になったことで、毎日の利用数が激減。また、他児童発達支援事業所の増加、幼稚園での受け入れ拡大等もあり、問い合わせそのものも無くなってきた状況の中、令和6年3月いっぱいでの閉園が決まりました。

そのような状況でしたが、幼児部では、羽村動物公園に春の遠足、八坂にあるイオンフードスタイルにクッキングのための買い物、いもほり、イオンモール武蔵村山、小平のブリヂストンTODAYなどに外出してきました。また、ふじみ保育園やころころの森に交流に行くことも再開。積極的に外へ出ることを再開した1年でした。

1月1日現在、利用登録9名、日々の利用は平均3～4人ですが、「あゆみ、たのしい！」と通っているお子さんたちのために、3月の最終登園日まで遊びを通して成長発達を見守っていきます。

（田中）

トビラ（相談支援）

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は、管理者になって初めての年だったこともあり、試行錯誤を重ねながらの日々でしたが、ご利用者様やそのご家族様からもあたたかい声をかけていただいたり、各事業所の法人関係者からの多くの助言や協力のおかげで孤立せず、気持ちにも少し余裕をもって仕事をすることが出来ました。皆様、どうもありがとうございました。

本年についても、法人理念に掲げている「利用者支援 力の限りの約束」や「法人職員の一致団結の支援」とあるように、支援を必要としている人たちが地域で安心した日常生活が営めるよう、各事業所の職員、市障害支援課などの行政機関とも協力し合いながら、ご本人やご家族の意志や希望に応じて適切な福祉サービスなどが受けられるよう支援していきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（村山）



ホームヘルプ ひだまり（居宅介護・重度訪問介護）

ご利用者様、ご家族の皆様にはいつもひだまりへのご理解、ご協力を賜り大変ありがとうございます。

一对一の個別支援であるひだまりにとって、朝であれば通所先等に楽しく通っていただくための準備、また、夕方であれば通所先等から帰ってきて、ご自宅でほっと一息できる空間・雰囲気づくりを大切にしています。特に、ご自宅というプライベート空間で、ご利用者様・ご家族様の生活を崩さず、心地よいコミュニケーションをとることは、ひだまりだからこそ出来る支援ではないかと思っています。

令和6年も研修等を通して、職員の更なる資質向上を目指し、ご利用者様、ご家族様にとって「ひだまりの人が来ると安心する」と言ってもらえるよう、力の限りの支援をさせていただきます。

（亀井）



職員ひとこと

テーマ 「利用者さんとの思いで」



あゆみの家成人部 岡元 崇年

成人部の利用をはじめたばかりで、まだ緊張をされていた利用者さんが、コミュニケーションの中でふと笑顔で返してくれるようになった瞬間が印象に残っています。

これからも利用者さんとのいろいろな一瞬を大切にしていきたいと思っています。



ひまわり(児童発達支援)
市川 加奈子

子ども達が大好きなプール

子ども達はプールに入ると全身の力が抜けてリラックスしています。自分も一緒に入って子どもと楽しみました。

今年は外にプールを出して遊べたことも、とても楽しかったです。



ひまわり(放課後デイサービス)
小山 大志

学校、家庭が主な生活の場となる年代において、放課後等デイサービスは余暇活動の場です。だからこそ『遊び』に重点を置き、『遊び』を通じて子ども達の人生の一部に関われる事がとても素敵でやりがいのある仕事だと思っています。

子ども達が成長し、中学生や高校生、また十数年後の大人になってから、「あの時こんな事やって楽しかったね」「遠足でこんな所に行ったね」と楽しそうに思い出を話してくれる事がよくあるのですが、そんな時、改めて子ども達の思い出の中に自分がいられる事がたまらなく嬉しく、かけがえのない時間に携わらせてもらっていることを実感し、感謝の気持ちでいっぱいになります。

今後も子ども達の思い出に残るような楽しい活動を沢山していけたらと思っています。



GH ファウンテン 檜垣 匠

入浴介助の時、利用者さんが歌をうたいだし、一緒に歌ってお風呂を楽しんだ事がファウンテンで仕事を始めていちばん記憶に残る楽しかったことです。

早いもので10月からグループホームが始まり、3か月近くが経ちます。これからも笑顔が絶えない楽しいグループホームでの生活をお手伝いできるような日々努力し、更に心にゆとりを持ち、利用者さんと接していきたいと思っています。



ライフサポートつばさ・ファウンテン兼務
中村 恵子

私の利用者さんとの楽しかった思い出は、12月のクリスマス会でのカラオケコーナーで一緒に「パプリカ」を歌ったことです。実は会が近づくにつれて利用者さんが皆の前に立ったとたん、緊張して歌えなくなってしまったらどうしよう…と不安になってしまったのですが、いざ出番になるとお気に入りの曲にノリノリで大熱唱！大成功に終わりました。

楽しそうに腕を振って歌っている利用者さんの姿が見られて嬉しかったです。



ライフサポートつばさ 山下 毅

なんでもない日の、なにげない所作に、利用者さんのその方らしさやつばさらしさが見え隠れする瞬間が楽しいです。

例えば、定番の運動レク。いざ、絶好のシュートチャンス！という時にパスを選ぶような方がありますと、その意図を想像したりします。その種のパスは時に、ちょっと自信なさそうな仲間に向けられたり、さっきのトラブルが胸につかえている仲間に向けられたり、お休み明けで調子の戻らない仲間に向けられたりもします。



ホームヘルプひだまり 菅原 義輝

ヘルパーになってはじめての外出支援、利用者様と観に行った映画。それ以来主演の方のファンになって舞台やコンサートに通われるなど「推し活」をしている利用者様。

夢中になれるものに出会ったとき一緒にいられてよかったなあ。(あれは何年前でしたっけとお聞きしたら2013年12月とのこと。ということはもう10年前！)

編集後記

今号の「職員のひとこと」は利用者さんとの思い出を記事にしました。編集にあたり、たくさんの楽しかった思い出を伺うことができました。私も普段は忘れていたそんな一瞬を、色々と思い出せました。

今号のニュースレターを読んでもらった皆様にも、大切な方との思い出を振り返るきっかけになれば良いなと思います。

(増田)

発行元 社会福祉法人いずみ
東京都東村山市富士見町 3-3-4
TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。